

兒研部員諸君に希む

三 枝 樹 正 道

兒童を取扱ふことは少くとも教育的でなければならぬ。従てそこに色々と考へねばならぬこと、注意せねばならぬことが澤山ある。今その二三を指摘して諸君の参考に資せん。

まづ兒童は少くとも今後十五年乃至二十年以後の世界に活動するものであることを忘れてはならない。而も兒童は成長し時代は進展してゆくものである。だから兒童教化に携はる人は、是非とも高邁なる識見を有せねばならぬ。而してそれに従つて、現代の文化を整理して兒童に授け、而も兒童をして徒らにそれを受納するのみに止めしめず、更に進んで自ら將來の文化を創造せしむる様指導せねばならぬ。只だ現代の文化の受納記憶に止らば、將來の社會生活に於ては必ずや落伍者の一人となるであらう。是れ兒童教化に従事するもの、第一に反省考慮せなければならぬことである。即ち教化者は常に研究し常に進歩し、自己の發展に努力せなければならぬ。

次に兒童も亦一人格者である。故に決してこれを興味の對象、玩弄物化してはならぬ。稍もすると親ですら我が子を自己の興味の對象にして喜ぶものもある。實際あの無邪氣な兒童は實に可愛いものである。然し兒童教化に際してかくの如き感覺的な愛情を以て接してはならぬ。必ず教育的なる純情を以てこれに臨まねばならぬ。單に兒童と共に語り共に遊ぶことが愉快であるとの理由で兒童教化に従事してはならぬ。成長しゆく兒童の個性を開導し教養する

所に無限の歡喜を有するものでなければならぬ。純眞無垢な兒童に對して、吾が一舉手一投足が如何なる經驗を印象づけるかを考へる時。教化従事者はその責任の重大なることを痛感し、充分なる自重と不斷の反省とを以て、これに臨まねばならぬ。

第三には兒童は渾然たる精神の所有者である。故に單にお嘯や舞踊で感情の陶冶を計るのみでは完全とは云ひえない。だと云つて理論めいたる知識の注入に傾くことは尙更よくない。よくお嘯を巧みにして兒童に喝采を叫ばしめて自ら満足するものもあるが大いなる誤りである。而も亦是れは陥り易い誤りである。少くともその話、その遊戲が兒童の生活に浸透して渾一的なる精神の向上に資する所がなければならぬ。

最後に兒童は前途有爲な將來を有する人間にして、單なる成人の縮小圖又はその未熟なるものに非ずして、各自これ自身に独自の價値體である。而もそれは成人の豫測を許さざる、又その意圖以上に成長しゆく生命者である。故にこれを劃一的に或は一定の約束の許に或は又成人の希望通りにその成長を約束することは出来ない。此點に於て教化の任にあるものは、兒童各自の個性に對して綿密なる視察と精到なる注意を拂はねばならぬ。かくてこそ兒童教育の意義も始めて完ふしえらるゝのである。

尙ほ更に吾人教團の關係者にあつては普通の教育者と異り、凡てを宗教的なる雰圍氣の中に實行せねばならぬ。お話をしても遊戲にしても、舞踊にしても一般教育と異なる點を必要とする。それは宗教的、否佛教的でなければならぬ。佛教家の教育の意義もそこにあるのである。普通教育者の後尾に附隨するを以て足れりとするものに非らずして、その最も必要なる欠陥を補ひ、且つ彼等の教育を指導し且つこれを完成せしめるものでなければならぬ。換言すれば教團關係の兒童教化者は信仰の裡に以上述べしが如き教育的活動をせねばならぬ。